

## 令和3年度 研究助成報告の作成要領

研究助成報告にあたっては、「①研究助成報告書（報告様式）」（会計報告添付）と、「②研究論文要約」の2点を作成し、①、②とも各1部を郵送により提出してください。

なお、②についてはデータ（word 文書）もメールにて [hiroba@seisakuiryou.or.jp](mailto:hiroba@seisakuiryou.or.jp) まで送信してください。

また、研究課題名を変更することは不可ですので、必ず申請時の研究課題名で報告してください。

報告は、全支出の領収書（支出期限令和4年3月末日）が揃ったら速やかに提出してください。報告がない場合は、助成金を返金していただくこととなりますので、報告の提出締め切りを必ず守ってください。

提出締切：令和4年5月末日

「②研究論文要約」は、そのまま、本研究事業により助成を受けた全研究をまとめて冊子にし、全国立機構病院その他当財団関係機関に配布いたします。また当財団発行の月刊誌「医療の広場」に掲載いたします。

### 「②研究論文要約」作成について

1. **A4用紙 3～4枚**（例参照）  
研究課題名、研究者氏名、研究協力者の所属施設を記入
  2. ファイル形式はワード文書
  3. 縦2段組として文字10ポイント程度
  4. 研究成果、緒言、方法、結果、考察、結論、参考文献、研究成果発表の順で作成
  5. 図・表・写真は適宜使用。アンケート用紙などは添付して下さい。
  6. 参考文献は文末に一括記載
    - 6-1 引用文献は本文に引用されているもののみをあげ、引用番号は本文の引用順よる。  
本文中の引用箇所の右上に番号をつける
    - 6-2 引用文献の書き方はバンクーバースタイルに順ずる。ただし引用文献の著者氏名、編者氏名は、4名以上の場合は最初の3名を書き、他は一ら、または et al. とする。  
抄録の引用は表題の最後に（会）、欧文の場合は（abstr）とする。
- <雑誌>著者名、論文題目、雑誌名 年；巻：頁一頁。  
<書籍>著者名、書名、版数、発行都市名：出版社名；年. 頁。  
例1) 里吉栄二郎. 内分泌障害によるミオパチー. 臨床神経 1961; 1: 439-49.  
例2) 清水潤、西山和利、武田浩一ら. 筋生検で type II atrophy を認めた進行性半側萎縮の一例（会）. 臨床神経 1991; 31: 93.  
例3) 小川鼎三. 脳の解剖学. 第4版. 東京：南山堂；1958.  
例4) McKeith IG, Dickson DW, Lowe J, et al. Diagnosis and management of dementia with Lewy bodies. Neurology 2005; 65: 1863-72.  
例5) 平井俊策. 膠原病に伴うニューロパチー. 上田英雄、武内重五郎、豊倉康夫、編. しびれ. 東京：南江堂；1981. p.285-95.

- 例 6) Merrit HH, Fremond-Smith F. The cerebrospinal fluid. Philadelphia: WB Saunders; 1938. p.94.
- 例 7) Heilman KM, Valenstein E, Watson RT. The neglect syndrome. In: Vinken PJ, Bruyn GW, Klawans HL, editors, Handbook of Clinical Neurology, vol 45, Clinical, Neuropsychology, Amsterdam, Elsevier; 1985, p.153-83.
- 例 8) Meldrum BS, Corsellis JAN. Epilepsy. In: Adams JH, Corsellis JAN, editors, Greenfield's Neuropathology, 4th ed. London, Arnold; 1984. p. 921-50.

【研究論文要約の作成例】

**研究課題名**

遺伝子性筋疾患の分子病態解明と診断・治療法開発

研究者 ○○・・・<sup>1)</sup>

**研究協力者**

○○・・・<sup>1)</sup>, ○○・・・<sup>2)</sup>, ○○・・・<sup>3)</sup>

**所属**

1)・・・研究センター・・・研究所

2)・・・病院 神経内科

3)・・・大学 薬学部薬学治療学

**研究成果**

① 抗けいれん剤使用の母親からの児には

② 本研究の結果から、推薦すべき

**緒言**

我々は、筋ジストロフィーおよび類縁疾患の

本年は、

を行った。

**方法**

**結果**

**考察**

**結論**

.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....

**参考文献**

1. Mitsuhashi S, Ohkuma A, Talim B, et al. A congenital muscular dystrophy with mitochondrial structural abnormalities caused by defective de novo phosphatidylcholine biosynthesis. Am J Hum Genet 2011; 88: 845-51.
- 2.
- 3.

**研究成果発表**

(参考文献と同じ書式で記入してください)

発表論文

- 1.
- 2.

学会発表

1. ○○○○、○○○○、○○○○、ら、筋ジストロフィーの再生を促進する成長因子の発見。第○○回日本神経学会総会、6月22-23日、2013年.
- 2.